

M 2096-5

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **08081807 A**

(43) Date of publication of application: **26.03.96**

(51) Int. Cl

A41D 13/00

(21) Application number: **06216893**

(71) Applicant: **ONYONE KK**

(22) Date of filing: **12.09.94**

(72) Inventor: **ONDA KIYOSHI**

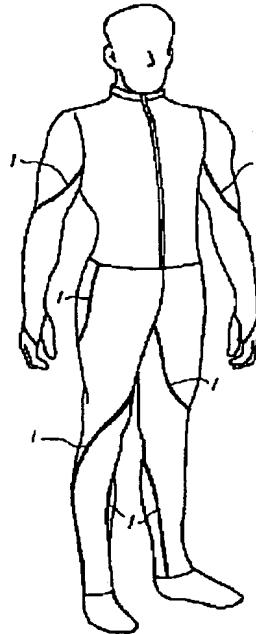
(54) SPORTS WEAR

(57) Abstract:

PURPOSE: To produce an epoch-making sports wear having an effect similar to taping and preventing the sports damages such as contusion, bruise and muscular damage by applying a taping theory of sports science and actively forming a part resistant to extension and contraction on a sports wear.

CONSTITUTION: This sports wear made of a stretchable material has a stretch-inhibiting line part 1 resistant to stretch and contraction or causing little stretch and contraction in longitudinal direction. The stretch-inhibiting line part 1 is extended in the direction giving a similar effect as the taping effect to restrict the motion of the muscles, joints, etc., by winding a tape on a human body and prevent the contusion, bruise, muscular damage, sprain, bone fracture, etc.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-81807

(43)公開日 平成8年(1996)3月26日

(51)Int.Cl.^a
A 41 D 13/00

識別記号
A 41 D 13/00

Z

府内整理番号
Z

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数6 O L (全5頁)

(21)出願番号 特願平6-216893

(22)出願日 平成6年(1994)9月12日

(71)出願人 391023758

オンヨネ株式会社

新潟県長岡市高見町4327番地

(72)発明者 恩田 清

新潟県長岡市高見町4327番地 オンヨネ株式会社内

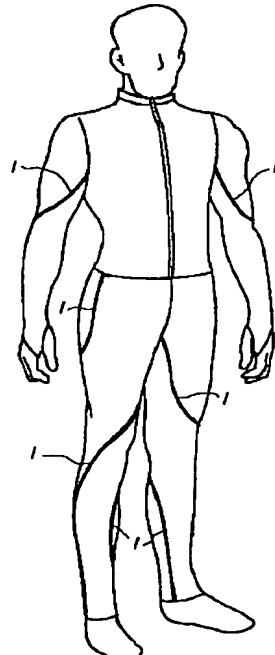
(74)代理人 弁理士 吉井 昭栄 (外2名)

(54)【発明の名称】 スポーツウェア

(57)【要約】

【目的】 スポーツ科学におけるテーピング理論を応用し、スポーツウェアにおいて積極的に伸縮しにくい部分を形成し、この簡単な手法によりテーピングと同様なる効果を生じさせ、挫傷、打撲、肉離れなどのスポーツ障害を防止する画期的なスポーツウェアを提供すること。

【構成】 伸縮性を有する素材で形成したスポーツ用の衣服に、長さ方向に伸縮しにくいか若しくは殆ど伸縮しない伸縮阻止ライン部1を形成し、人体にテープを巻き筋肉、関節等の動きを規制して挫傷、打撲、肉離れ、捻挫、骨折等を防止するテーピング効果と同様な効果を生じ得る方向に前記伸縮阻止ライン部1を形成せしめたスポーツウェア。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 伸縮性を有する素材で形成したスポーツ用の衣服に、長さ方向に伸縮しにくいか若しくは殆ど伸縮しない伸縮阻止ライン部を形成し、人体にテープを巻き筋肉、関節等の動きを規制して挫傷、打撲、肉離れ、捻挫、骨折等を防止するテーピング効果と同様な効果を生じ得る方向に前記伸縮阻止ライン部を形成せしめたことを特徴とするスポーツウェア。

【請求項 2】 前記伸縮阻止ライン部を腕や脚の長さ方向に沿って湾曲形成したことを特徴とする請求項 1 記載のスポーツウェア。

【請求項 3】 合わせ縫いした繫目ラインを前記伸縮阻止ライン部としたことを特徴とする請求項 1、2 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェア。

【請求項 4】 合わせ連続するファスナーラインを前記伸縮阻止ライン部としたことを特徴とする請求項 1、2 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェア。

【請求項 5】 スキーウェアの腕部分に前記伸縮阻止ライン部を形成したことを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェア。

【請求項 6】 スキーウェアのスキーパンツの脚部分に前記伸縮阻止ライン部 1 を形成したことを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェア。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、スキーウェアなどのスポーツウェアに関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 これまでのスポーツウェアは、機能性や耐久性、透湿性や防寒性などが適正となるように、スポーツの種類に応じてそれに適した素材の研究が進められてきている。特に使用者のそのスポーツに応じた動きに支障がなく機能性が向上するように素材の研究に加えどの部分をどの方向に良好に伸縮させると機能性が向上するかに主眼が置かれていた。

【0003】 本発明は、発想の転換を図って、これまでのような発想と全く異なる発想に基づき、スポーツ科学におけるテーピング理論を応用し、スポーツウェアにおいて積極的に伸縮しにくい部分を形成し、この簡単な手法によりテーピングと同様なる効果を生じさせ、挫傷、打撲、肉離れなどのスポーツ障害を防止する画期的なスポーツウェアを提供することを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】 添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【0005】 伸縮性を有する素材で形成したスポーツ用の衣服に、長さ方向に伸縮しにくいか若しくは殆ど伸縮しない伸縮阻止ライン部 1 を形成し、人体にテープを巻き筋肉、関節等の動きを規制して挫傷、打撲、肉離れ、

捻挫、骨折等を防止するテーピング効果と同様な効果を生じ得る方向に前記伸縮阻止ライン部 1 を形成せしめたことを特徴とするスポーツウェアに係るものである。

【0006】 また、前記伸縮阻止ライン部 1 を腕や脚の長さ方向に沿って湾曲形成したことを特徴とする請求項 1 記載のスポーツウェアに係るものである。

【0007】 また、合わせ縫いした繫目ラインを前記伸縮阻止ライン部 1 としたことを特徴とする請求項 1、2 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェアに係るものである。

また、合わせ連続するファスナーラインを前記伸縮阻止ライン部 1 としたことを特徴とする請求項 1、2 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェアに係るものである。

また、スキーウェアの腕部分に前記伸縮阻止ライン部 1 を形成したことを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェアに係るものである。

また、スキーウェアのスキーパンツの脚部分に前記伸縮阻止ライン部 1 を形成したことを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェアに係るものである。

また、合わせ縫いした繫目ラインを前記伸縮阻止ライン部 1 としたことを特徴とする請求項 1、2 のいずれか 1 項に記載のスポーツウェアに係るものである。

【0008】

【作用】 他の部分は機能性が高まるように素材は伸縮するが、これに比べ伸縮阻止ライン部 1 はその長さ方向に伸縮しにくいか殆ど伸縮しない。

【0009】 この伸縮阻止ライン部 1 をテーピング方向に沿うように形成することで、この方向の筋肉・関節などの動きが規制され、挫傷、打撲、肉離れなどのスポーツ障害を防止するテーピング効果と同等の効果が生じることとなる。

【0010】

【実施例】 スポーツ科学におけるテーピング理論は、テープを貼ったり巻き付けたりすることで、このテープを貼った方向の関節や筋肉などの動きを規制して関節、筋肉などを補強し、或いはテープを巻き付けることでその部分に不必要的力が加わらないようにしたりするもので、脚、腕、腰を始め、肩、首、指に至るまで人体の関節、靭帯、筋肉、骨などを保護し、挫傷、打撲、肉離れ、捻挫、骨折などのスポーツ障害の予防、再発を防止するために研究されている。

【0011】 本実施例では、スキーウェアに本発明を適用したものであり、このテーピング理論のうち特にスキーにおけるスポーツ障害に有効と思われる脚と腕を保護するように設計している。

【0012】 本実施例では、前記テーピング理論のうち図 1、図 2 に示す太矢印の方向にテーピングすることにより、このテーピング方向の動きを規制すれば、膝関節の保護、太ももの筋肉の保護、肘関節の保護、腕の筋肉の保護などが図れ、その結果スキーにより頻繁に生じ得る膝関節の挫傷、太ももの肉離れ、肘関節の挫傷、腕筋肉の肉離れなどのスポーツ障害を予防或いはその再発を

50

防止し得るとの理論に基づいている。

本実施例では、この理論に基づき伸縮性を有するスキーウェアに、長さ方向に殆ど伸縮しない伸縮阻止ライン部1を、脚、腕の長さ方向に蛇行させて図1、図2に示す方向に一致するように形成している。

【0013】先ず、図3、図4、図5に示す第一実施例では上下がつながった人体にフィットする伸縮性の良好なスキーウェア（スキースウェット）に本発明を適用したものである。

【0014】本実施例では、伸縮・収縮が良好で縦方向・横方向・斜め方向を含む全方向に良好に伸縮する薄いツーウエイトリコット素材で形成され、スキーヤーの人体にフィットし機能性の良好となるように形成されている。

【0015】従来、ウェアを縫製する場合、その素材を合わせ縫いして、脚部分、腕部分などを形成するが、従来のウェアではこの合わせ縫いする継目ラインは単に機能性に支障がなく体裁を考慮して目立たないように脚・腕の長さ方向に沿ってその内側に直線的に配されるようになっていた。

【0016】この点本実施例では、この素材を図5に示すように合わせ縫いしてウェアを形成する合わせ縫いした継目ラインを、前述の図1、図2に示す蛇行するテーピング方向に沿って形成する。

【0017】従って、単に合わせ縫いする継目ラインを従来と異なる所定方向に一致するように設計するだけで、この合わせ縫いする継目ラインがその方向には他の部分に比べて殆ど伸縮しないラインとなり、前記伸縮阻止ライン部1が形成されることとなる。

【0018】従って、前記テーピングと同様な効果が得られることとなる。

【0019】また、図6、図7、図8はスキーウェアのサロペット式スキーパンツに本発明を適用した第二実施例を示している。

【0020】本実施例においても図8に示すように多重合縫いして合わせ縫いした継目ラインを第一実施例と同様に蛇行するテーピング方向に一致させ、この継目ラインを伸縮阻止ライン部1としたものである。

【0021】また、更に第二実施例では脱ぎ易いように脚を開放するために形成され、その開放縁が図9に示すように合わせ連結されるファスナーラインも、前記テーピングラインと膝部で交叉するテーピングラインに一致するように配して伸縮阻止ライン部1' とし、合わせ縫いした継目ラインによって形成した伸縮阻止ライン部1（太線で示す）とこの合わせ連結するファスナーラインによって形成した伸縮阻止ライン部1'（二本線で示す）を交叉状態に二本形成し一層テーピング効果を良好に発揮するようにしている。

【0022】このように、いずれの実施例においても、縫製する時に合わせ縫いする継目ラインや、ファスナー

ラインを従来と異なりテーピング効果を生じる方向に設定して伸縮阻止ライン部1を形成し、この伸縮阻止ライン部1以外の部分は、伸縮性を良好として運動機能性を向上させ、この伸縮阻止ライン部1を形成した長さ方向が他の部分に比べて伸縮性を殆ど有しないことを利用してテーピング効果と同様の効果を発揮させている。

【0023】即ち、本実施例では合わせ縫いした継目ラインやファスナーラインを従来位置から移動設定することで、伸縮阻止ライン部1が構成されるから、不要な位置に継目ラインやファスナーラインがなくそれだけ従来製品に比べて機能性が向上すると共に、このライン1によりテーピング方向の伸縮性を積極的になくしてテーピング効果と同様な効果が発揮されるように構成している。

【0024】従って、本実施例では膝の曲げ伸ばしや内側への捻りなどスキーヤーの筋肉の動きを考慮して設定された伸縮阻止ライン部1によって、前記スキーヤーに生じ易い挫傷や肉離れの防止の他、人体へのフィット感も向上し、スポーツ時の疲労も軽減される。また、ファスナーラインも前述のように伸縮阻止ライン部1に設定するか、若しくはこのファスナーラインによるテーピング効果はなくとも、他の伸縮阻止ライン部1による効果ができるだけ減じないように第二実施例のような方向に設定することが望ましい。

【0025】また、前述の第一実施例のスキースウェット（ワンピース）と第二実施例のスキーパンツ並びに本発明に係るスキージャケットを組み合わせれば一層秀れたスキーウェアとなる。

【0026】尚、本発明は本実施例に限らず、合わせ縫いした継目ライン、ファスナーラインにより伸縮阻止ライン部1を形成せず、単に素材の裏面や表面に伸縮性を劣化させる素材を所定のテーピング方向に形成して伸縮阻止ライン部1を形成しても良く、またスキーウェアに限らず各種スポーツウェアに適用し得、その種々のテーピング方向も適用するスポーツに応じて設計されるものである。

【0027】
【発明の効果】本発明は上述のように構成したから、スポーツ科学におけるテーピング理論を応用し、スポーツウェアにおいて積極的に伸縮しにくい部分を形成し、この簡単な手法によりテーピングと同様なる効果を生じさせ、挫傷、打撲、肉離れなどのスポーツ障害を防止することができる秀れたスポーツウェアとなる。

【0028】また、合わせ縫いした継目ラインを前記伸縮阻止ライン部若しくは合わせ連結するファスナーラインを前記伸縮阻止ライン部とすれば、従来からある合わせ縫いした継目ラインやファスナーラインを移動設定することで、機能性を従来製品より向上することができると共に、このラインによりテーピング方向の伸縮性を積極的になくしてテーピング効果と同様な効果を発揮させる

5

ことができる極めて秀れたスポーツウェアとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例でのテーピング方向を示す説明正面図である。

【図2】本実施例でのテーピング方向を示す説明裏面図である。

【図3】第一実施例の概略構成説明正面図である。

【図4】第一実施例の概略構成説明背面図である。

* 【図5】第一実施例の要部の断面図である。

【図6】第二実施例の概略構成説明正面図である。

【図7】第二実施例の概略構成説明背面図である。

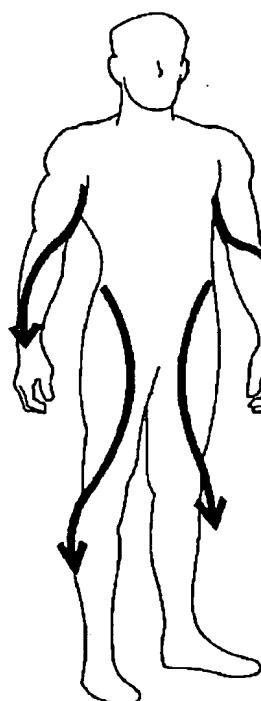
【図8】第二実施例の要部の断面図である。

【図9】第一実施例のファスナーラインによる伸縮阻止ライン部を示す説明図である。

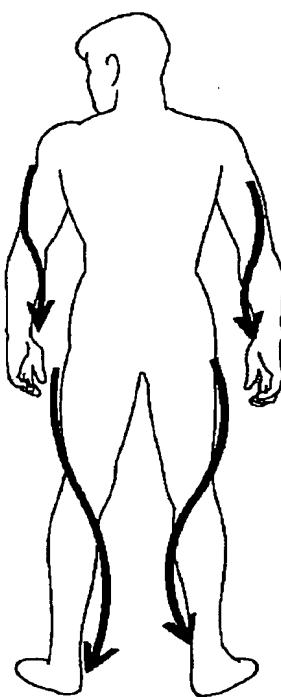
【符号の説明】

1 伸縮阻止ライン部

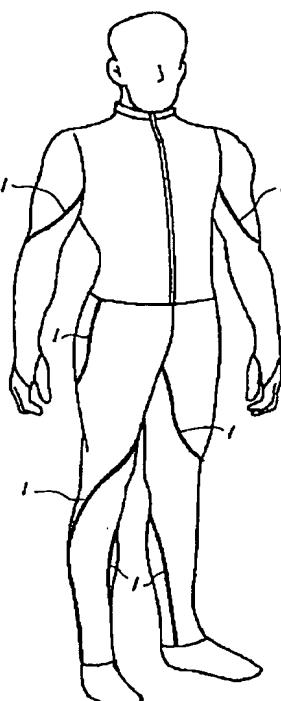
【図1】



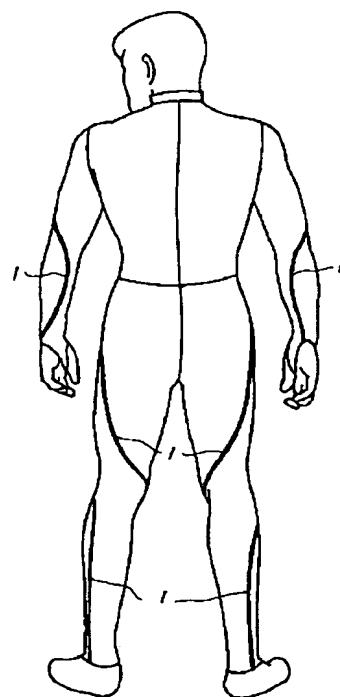
【図2】



【図3】



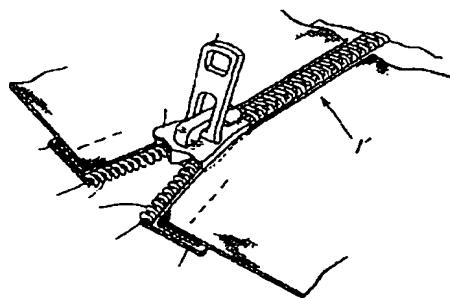
【図4】



【図5】



【図8】

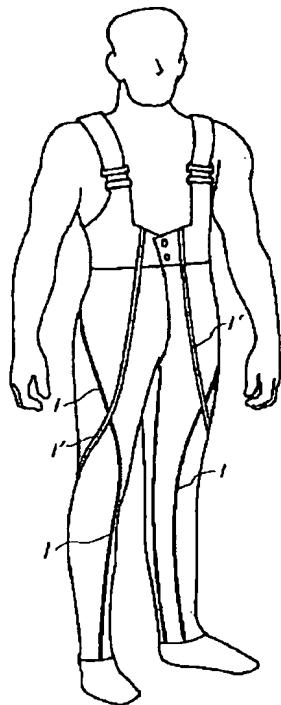


【図9】

(5)

特開平 8-81807

【図 6】



【図 7】

